

会 議 録

会 議 録			
名 称	都留市文化財保存活用地域計画策定協議会	回数	第 1 回
日 時	令和 8 年 6 月 26 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分		
場 所	ミュージアム都留研修室		
出 席 者	【委員】石井委員、稲垣委員、植田委員、上村委員、唐澤委員、菊地委員、小林委員、佐藤委員、清水委員、田開委員、本田委員、宮里委員、御山委員、森屋委員 【委員（庁内）】佐藤委員、鈴木（弘）委員、島尻委員、竹谷委員、河野委員 【事務局】教育長大竹、生涯学習課長程原、生涯学習課長補佐中村、文化振興担当リダー知念、文化振興担当下田、文化振興担当小島、文化振興担当三浦		
欠 席 者	【委員（庁内）】鈴木（美）委員、三澤委員、高部委員		
議事内容	次のとおり		
1. 開会（司会進行：生涯学習課長補佐中村） 2. 委嘱状の交付 3. 教育長あいさつ 4. 委員紹介 5. 会長の選任 小林重雄委員を会長に選任。 6. 会長あいさつ 7. 議事（事務局）			
ア	資料 1	「都留市文化財保存活用地域計画作成の目的と背景」について事務局より説明。	
【委員からの意見】			
小林議長 非常に膨大な計画であり、令和 10 年には認定を受けなければならないということで、スケジュール的にも切迫しているところがある。そうした中で、菊地委員は甲府市の計画策定にも関わったとのことなので、その経験も踏まえて意見を伺いたい。			
菊地委員 説明で「文化財」というキーワードが使われていて、計画の名前自体も「文化財保存活用地域計画」なので、やはり文化財に目が行きがちだとは思うが、甲府市の地域計画を作った経験からすると、計画の中で非常に重要なのは、「歴史文化」という言葉と思う。資料の目次構成の中にも「歴史文化の特性」という項目があるが、この「歴史文化」という言葉は、この計画においてかなり重要なキーワードだと思う。第 6 次の都留市総合計画では「歴史・文化」のように「・」が付いていたと思うが、文化庁による地域計画の作成指針では「・」が付けられていない。やはり歴史と文化は一体			

不可分というか、今の私たちの生活の中で感じている文化というのは、かなり歴史的背景がある。そういう意味で、「文化」というところを切り口にこの計画を考えていくと、なぜ文化財を守らなければいけないのかということも見えてくるし、その意味でも「歴史文化」という言葉を、もう少し計画全体のビジョンや柱立ての中に位置付けてあげると、よりわかりやすくなるのではないかなと思う。保存ということを考えると、文化財を守るという発想になりやすいが、活用ということを考えると、教育現場でもそうだと思うが、「歴史文化」という切り口で子どもに接していった方が、子どもも理解しやすいと思うし、市民にとってもわかりやすいと思う。文化財を直接的に守る活動、活用する取り組みというものと、もう１つ上位のところで、「歴史文化」ということをみんなで共有する取り組みを通じて、結果として文化財の保存に全体で目を向けていく、そういう整理が必要ではないかなと思う。直接的には「歴史文化」を扱っていきましようという取り組みが様々なテーマや事業で分かれてくると思うので、そのあたりを全体の位置付けの中で整理してあげると、より方向性が見えやすくなるのではないかなと感じた。

小林議長 保存と活用という話になると、教育の話もかなり関わってくる。学校現場では、文化財に対する教育について普段どのようなことをしているのか、上村委員に伺いたい。

上村委員 今の話にもあったように、「文化財」という言葉と「歴史文化」というところは、やはり大事だと感じている。アンケート結果を見ても、「生活に関係がないから興味がない」「あまり関わりがない」というところが出ているので、やはり「歴史文化」も視野に入れながらやっていくことが大事ではないかなと思う。教育現場では、正直に申し上げると、文化財そのものを対象にして学びをする機会はあまりない。それよりも、地域の文化とか、地域の課題とか、そういう地域と関係したテーマについて学習していることの方が多い。そのため、少し広く捉えれば、教育現場でもかなり接点はあるのではないかなと思う。「文化財」そのものではなくても、「地域」や「歴史文化」というところをつないでいけば、学校でも取り組みやすいのではないかなと感じた。

小林議長 森屋委員はこの分野で活躍されており、長年、文化財保護行政の経験も豊富で、現在も尾県郷土資料館の運営についてアドバイザーとして関わっていただいている。そうした経験も踏まえて、何かあればお願いしたい。

森屋委員 アンケートについては非常に面白い傾向が出ていると思う。今も話が出ていた「文化財」というワードだが、これは「あなたは文化財に関心がありますか」と、そのまま質問しているのか。

事務局 そのように質問している。

森屋委員 おそらく一般の方は、そもそも「文化財」がわからない。私もこういう形でアンケートを取ったことがあるが、文化財が何かイメージできない層が圧倒的に多い。「文化財保護政策」という授業において、冒頭で学生に「文化財って何かわかりますか」と聞いても、誰も手が挙がらないこともある。そういう状況なので、一般の方はなおさらイメージができないと思う。だから、例えば質問の中で「地域の何々」とか、具体的なリストを添付したり、尾県学校や勝山城などの具体的なキーワードを入れると、少し調査票のデータは変わってきたかなという気がする。一般の方の文化財に対する認識を前提にして設定する必要があると思う。

あと1点、これから議論していくことになると思うが、ビジョンの中に度々「うぐいすホール」が出てくる。これはどちらかというと芸術文化振興のための施設という位置付けだと思うが、それを文化財にどう紐付けるのか、そのあたりに何かビジョンがあれば教えてほしい。

事務局 うぐいすホールについては、あくまで文化振興担当が管轄している施設ということで、計画の中に入れている。現状としては、芸術文化の取り組みに注力している施設であり、文化財に関して具体的な取り組みがあるわけではない。将来的には、例えば埋蔵文化財のフォーラム等での活用や、本市で行う文化財に関するイベントなどで、何かしら活用できればと考えている。また、理想的には、単にイベントを実施する場所ではなく、地域のコミュニティを育む場、地域の方々がつながりを持って活用できる施設になればと考えている。概念的な部分も多いので、そのあたりはぜひご助言をいただきながら整理していきたい。

森屋委員 喫緊の課題として無形の文化財の話も出ていたので、例えば民俗芸能の公開や上演の場として位置付ければ、文化財との関連付けは可能ではないかと思う。その辺りは、他の委員の先生方からも助言をいただきながら、計画に組み込めるものは組み込んでいければよいと思う。

小林議長 ここまでは私の方で委員をご指名して意見を伺ってきたが、それ以外にも、それぞれ文化財についてさまざまな思いがあると思うので、自由にご意見をいただきたい。

清水委員 説明の中で、「次世代へ」「10年後、20年後」と繰り返していたのが印象に残っている。そういうことからすると、教育現場から見れば、やはり子どもにフォーカスすること、小学校教育、中学校教育、幼児教育、そういうところにももう少し大きく焦点を当てて、計画の中に盛り込んでもらえたらうれしいと思う。昨年度、小学校で

総合的な学習の時間の中で地域学習を展開した。そのとき、例えば田原の滝を見学するのに、教員が行って教えるのではなく、学芸員に現地で直接教えてもらい、子どもたちの表情が全然違う様子だった。子どもたちだけでなく、教員も異動も多いため、地域を知らないことが多い。以前、教育委員会が学校に来て、教職員向けに地域学習の話をしてくれたことがあったが、非常に勉強になった。

ただ、そうした取組が「点」で終わっているため、それをこの計画の中で「面」として広げていくような、具体的な展開ができるようになると思う。東桂地区には縄文時代からの歴史があり、私自身、子どもころに竪穴住居跡のような場所で遊んだり、土器を拾ったりした記憶もある。そういう地域であっても、今の子どもたちは歴史文化を知らないというのが実感である。それを踏まえて、計画の中に具体的に盛り込んでほしい。

小林議長 学校現場ならではの生の声として、非常に参考になった。

石井委員 私は観光という切り口から見ているので、この中では一番文化財から少し遠い立場かもしれない。ただ、都留市は富士急行線の中でも駅数が多くて、距離も長いエリアである。その一方で、残念ながら観光客やインバウンドは、都留を通過して富士山エリアや河口湖に行ってしまう。そういう意味で、今回の計画の中で「点を面にする」という話が出ていたのは、外部に都留を訴求していく上で非常にありがたいと思っている。八朔祭りや郷土資料館、谷村の歴史、さらに文化財といったものをどうやって都留の魅力として見せていくか。やはり点だけでは、非日常を求めて来る観光客に対しては弱い。ただ、谷村の城下町、文化財、さらにはリニアも含めて、都留の魅力を面として包括的に見せていくことができれば、我々としても、JR 東日本などとのネットワークを使って PR することができるし、交流人口を高めるきっかけにもなると思う。「点」を「面」にして、それをどうアピールしていくかというところに、ぜひ一緒に関わっていききたい。

小林議長 別の角度からの意見として大変参考になった。

植田委員 アンケート結果については、博物館や文化財の側からすると、あまり見たくなかったデータかもしれないが、そこにあえて向き合ったということが非常に大きいと思う。地域住民の声、一般住民の感覚をしっかりと「見える化」したという点は、すごく重要である。そこで感じたのは、やはり地域の中で多様な関心を持っている人たちに対して、「文化財はどう役に立つのか」「どうつながれるのか」ということを示していく必要があるということである。そこが今後の大きなテーマになると思う。直接、住民全体に働きかけるのはなかなか難しいが、今回のようにいろいろな部門の方が集まって

いるので、それぞれの部門が関わっている住民の方々に対して、文化財がどう貢献できるのかを考えていくことが大事だと思う。小学校教育の中でどう役立てられるのか、高齢者の「居場所」づくりの中でどう活用できるのか、あるいは障害、子育て、そういった文脈の中でどう関われるのか、そうしたところを見ていく必要がある。そういう中で「活用」という枠をしっかりと設定して、関わる人を増やしていくことによって、結果として「やっぱり大事だよね」「保存しないといけないよね」という方向につながっていくのではないかなと思う。ビジョンの設定は来年度の作業か。

事務局 然り。

植田委員 ビジョンをしっかりと設定し、「何をすべきか」を検討する方が、議論がぶれないと感じる。もちろん軸は文化財保護になると思うが、サブ軸として保護に向けてどのように進めるかを明確にして議論を進める。そのうえで、文化財調査、防災、各部門との連携などを明確にすれば、体系的に整理ができるのではと感じた。行政政策を立てていくときにビジョンを起点にするのは基本であると思うし、そうでないと枝葉の議論となり、イタチごっこのような形になってしまうと思う。また、外から来る人を増やすという話と、地域の中で保存に関わる人を増やすという話は、ごちゃまぜにせず分けて整理した方がよい。また、都留市への来訪者を増やすことと、担い手を増やすことは、意識して整理した方がよいと思う。

小林議長 ビジョンの設定や、活用の整理の仕方について、非常に具体的な提案をいただいた。

田開委員 先ほどから出ている「歴史文化は不可分である」という話は非常に印象に残った。私自身は環境教育の立場なので、そこにさらに「自然」という分野も入ってくると思っている。長い歴史で見れば、富士山の噴火があり、その後の復興があり、あるいは何万年前の噴火による地形の成り立ちもある。そうした自然の成り立ちの上に、歴史や産業や文化が織りなされているので、自然・歴史・文化は一体のストーリーとして市民に伝えていくことが大事だと思う。また、資料の中にもあったが、文化財というのは心のケアや、よりどころの場にもなりうる。実際、2週間ほど前に尾県郷土資料館で、都留文科大学の学生が蛍の観察会を主催したが、そういう使い方も非常に意味があると思う。文化財のある場所が拠点になって、多様な活動が開かれていくということは十分考えられる。もう1点だけ補足したい。30ページに保存・活用に関わる施設等を加えるのであれば、寺院（を母体とする保育園）についても位置付けを検討していただきたいと思う。都留市には、長生寺を母体とする長生保育園や、真福寺を母体とする開地保育園をはじめ、寺院と密接な関わりを持つ保育園が複数ある。法人としては寺院と保育園の経営主体が分かれている場合もあるが、実態としては寺院の文

化財や歴史的空間を生かした活動が日常的に行われており、幼少期から文化財に触れる機会が数多く存在している。幼少期からの文化財との関わりを可視化し、市民のライフステージに沿ったストーリーとして示していくことも本策定委員会の重要な役割ではないかと考える。そのような視点を盛り込むことで、市民にとって身近な文化財の価値や地域への愛着をより育む計画となることを期待したい。

小林議長 急激な人口減少の中で、文化財保護も今後どう支えていくのかという大きな課題がある。実際に石造物の悉皆調査をされた佐藤委員に、現場で感じたことを伺いたい。

佐藤委員 昭和 40 年代にまとめられた石造物や社寺の記録に対する追跡調査として、フィールドワークをして悉皆調査を実施した。一番ハードルになったのは過去の記録が、当時の古老が当然のように場所を知っていることを前提に書かれているので、所在地の記載がかなり大まかである。今回、その記録を頼りに調査してみると、まず所在地が分からない。地域の古老に聞こうとしても、やはり高齢男性が地域に少なくなっていて、山に入ったり、そうしたものを把握していた方がもういない状況だった。実際に現地を回ると、社寺にあるものや民間で管理されているものは比較的状态がよい。一方で、山間部にあるものは、害獣防止柵の設置やクマの問題もあって人が入らなくなり、保存管理がほとんどされていない。倒壊しているもの、崩壊しているもの、散逸しているものかなりあった。文化財保護の観点から、現状変更をしないことを前提とした調査だったので、そうしたものについては写真記録を残すしかなかったが、状況としてはかなり厳しい。今後は、地域の人が自分たちの身近な文化財を知らないという現実をどう変えていくか、そして保存・管理・活用をどう切り分け、どのようにサイクルを回していくかといったところに注力していく必要があると感じた。

本田委員 資料を拝読した限りでは、現状「文化財の所有者」や「守る」立場からのまとめが中心になっている印象を受けた。今後は「文化財を活用する」というユーザー視点に立ち、具体的な施策や KPI を設計していく必要があると思う。アンケート結果でも約半数が「文化財に関心がない」と回答していることから、まずは市民や市外の方との接点をいかに作るかが重要だと考える。私自身も「つるのルーツ」の立ち上げと運用において、城下町への関心が低い中で、どの層から広げ、どう接点を作るかを重視して取り組んできた。資料 7 ページの「今まで」「これから」「結果」についても、その間に具体的な「施策」が必要だと感じる。文化財を一つの「サービス」と捉え、活用を期待する「ステークホルダー」を具体的に定義した上でその方々がどのように変化していくべきか、カスタマージャーニーマップなどの手法を用いて接点と施策を整理していくのが有効ではないかと考えている。

唐澤委員 委員の構成や市側の体制を見て、市の本気度を感じた。コンサル丸投げでなく見識ある人たちが意見を出し合える場があることは良いことだと思う。今後は、ところどころで、市民の声も可能であれば伺いたい。アンケート結果については、回答率が一般的な郵送調査よりもやや高い傾向にあることは、都留市の特徴かもしれない。一般的には郵送調査による回答率は20%程度とみれば、今回調査の回答率は高い方と思う。それだけ、総合計画に市民の意識が向いていると言えると思う。また、課題の状況については、担い手不足が言われているが、これは「1）少子化ないし高齢化による要因」「2）都留市に在住しながら都留市がベッドタウンであるとする要因＝勤務地などが都留市外にあり居住地で過ごす時間が少ない」とした、2つの見方を持つ必要があると考える。事業課題については、文化財に係る施設が単独運営であるが、ネットワークの形成は重要なことかと思う。加えて、限られた財源の分配という意味でも効率化を図ることができる機会になると思うが、一方で、効率化によって見失うものがあるため、かなり慎重な考え方が必要とも感じる。また、他市町村という意味では、今後、隣接する大月市をはじめとする各市町村との連携は欠かせないと思う。市民が必要と思える身近な場所、生活としての身近な場という視点が大切だと思う。その先駆的な例として、尾県学校の保存があると思う。このモデルを応用することで、時間とコストの節約につながると思うし、何より、都留市全体での良いモデルが構築できるのではないかと考える。

稲垣委員 文化財に対する市民の認識についてのアンケート結果では、市民の興味関心が低いことが示されているが、この結果は「文化財」という聞き方が回答を限定させてしまったのではないかと思う。大月市では、第7次総合計画策定時に市民アンケートを実施（平成27年2月～3月実施）しており、「あなたが、大月市の一番誇りに思うことや、大切にしたいと思うことは何ですか。人・自然・産業・伝統文化など簡潔に記入してください」という設問に対し、猿橋（名勝猿橋）、岩殿山（岩殿城跡）、追分人形（追分の人形芝居）といった文化財の名称が多く記入されているのが確認できる。都留市においても、同様の聞き方をすると、お城山（勝山城跡）、田原の滝（名勝田原の滝）、八朔祭り（屋台後幕）のような文化財の名称が確認できるのではないかと思う。こうした市民の価値認識を拾い上げる（認識を確認する）ような計画にしていけるのも重要なのではないかと感じた。

小林議長 多くの委員から非常に重要な意見をいただいた。時間の都合もあるので、次の議題に移りたい。

【委員からの意見】

小林議長 ただいまの説明について、意見があれば伺いたい。

菊地委員 やはり「歴史文化」という観点では、「時代」というものが重要になってくると思う。近世、近代、現代、戦後まで含めて見ていくことで、今住んでいる人たちにとって、自分たちの生活と歴史が意外とつながっているのだということが見えてくる。その辺りはぜひ検討いただきたい。また、御山委員が中心になって県で近代遺跡の調査を進めているので、そうした成果とうまくタイアップしていければ、いろいろなことが展開できると思う。それから、この地域計画では、「あれも文化財なのか」と思わせるような、意外性や遊び心もとても重要だと思う。説明資料はやや歴史の方に寄っている印象があるが、例えば学校そのものも、建物は新しくても、存在の歴史が古ければ文化財的に捉えることができる。学校にある二宮尊徳像なども、当たり前のもとして見られているが、見方を変えれば価値がある。ほかにも、水路や耕地整理の記念碑など、地域の中にはいろいろなものがあると思うので、そうしたものも含めて拾っていく視点があるとよいと思う。

小林議長 県の方でも近代遺跡の調査が進められているとのことなので、そのあたりも含めて御山委員にお願いしたい。

御山委員 昨年度から、県でも近世・近代の遺跡の取扱いについていろいろ検討を進めている。その中で考えているのは、市町村単位だけで完結するのではなく、もう少し広い範囲、隣接市町村も含めた地域性を捉えていく必要があるのではないかとということである。やはり個別の資源だけを並べても、その地域らしさはなかなか伝わらない。都留市でいえば、地形環境があり、その中に人が住み、インフラを整備しながら暮らしてきた。その積み重ねが今につながっており、そういうところまで含めて考える必要があると思う。例えば石積みや水路、あるいはちょっとした段差処理のようなものでも、どうしてそこにそれがあるのかと見ていくと、その土地での暮らし方が見えてくる。コンクリートブロックのような近代的なものでも、新しいから除くのではなく、なぜそれがそこにあるのかという視点で見ていくことが大事である。そうしたものをしっかり拾い上げていくことができれば、学校教育や地域学習の中でも、子どもたちにとって「地域に気付く」きっかけになると思う。

唐澤委員 全体的に分類が分かりやすく、都留市にこれだけの文化財があることが分かった。

小林議長 本当はもっと意見を伺いたいところではあるが、時間もあるため、この議題についての質疑はここで一度区切りたい。

ウ 「その他」

事務局 第２回会議は８月末頃を想定しており、改めてメールで案内する。

小林議長 次回は暑い時期になるが、各委員には引き続き協力をお願いしたい。また、今回発言の機会がなかった委員には、次回ぜひ意見を伺いたい。以上で議事進行を終える。

８ その他

事務局 ミュージアム都留で７月から企画展を開催予定であり、そのチラシも後ほど案内する。

９ 閉会